

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭59-162957

⑫ Int. Cl.³
B 02 C 18/40
B 65 F 5/00

識別記号
1 0 2

庁内整理番号
6425-4D
6916-3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)9月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 生ゴミ処理機

⑯ 発 明 者 半田智一

沼津市本松下845-6

⑰ 特 願 昭58-36212

⑱ 出 願 人 半田智一

⑲ 出 願 昭58(1983)3月5日

沼津市本松下845-6

明 細 書

昭和58年3月 日

1. 発明の名称

生ゴミ処理機

2. 特許請求の範囲

円筒本体内部適所に固定刃と、その上面を摩るように回転刃が回転する切断機構を設け回転軸を回転可能に支承せしめ、さらにその回転軸には、変形スクリー羽根を嵌合固定させ、上記円筒本体には、円筒部適所と底盤にヒーターを配装させ、円筒上部にはペダル操作によって蓋が開閉するように構成し、円筒本体下部近くに排出口を設け、さらに円筒本体上部近くには排気口を明け、排気口にはファンを直結せしめ各部材適所に電気制御装置を配装し、上記回転軸は駆動装置と直結した生ゴミ処理機。

3. 発明の詳細を説明

この発明は生ゴミを円筒内において細かく切断し、ヒーター熱と変形スクリー羽根とによって乾燥処理させ、体積を1/4に重量を1/3に

減少させることのできる生ゴミ処理装置に関する。

従来、一般家庭・食堂等々から排出される生ゴミは、収集業者と市役所が収集し、焼却場に運ばれているが、生ゴミはとりわけ体積と重量があるので収集運搬と調理場における処置に多くの手間と費用が費いやされている。さらに生ゴミにあつては腐りやすく、ハエ・ゴキブリ・ネズミ等の繁殖の根源となっており、はたまた食中毒の源ともなっている。なおこの様な事柄については公知であるために、これ以上の説明は省略する。

この発明は上記従来の問題に鑑み、ペダルを踏むと蓋が開くように構成し、それに生ゴミを投入するだけで生ゴミは自動的に適宜の大きさに切断し乾燥されて排出口から放出される装置を提供するにある。

以下図面について実施例を説明する。

まず、第1実施例を第1図および第2図を参照して説明すると、図において(1)は円筒本体で

(1)

—327—

(2)

BEST AVAILABLE COPY

(14) …… 押し下げ棒

(16) …… 駆動装置

(15) …… ペダル

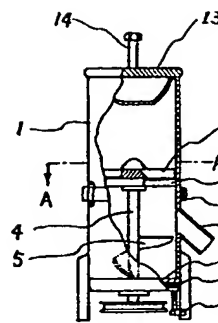
以 上

出願人 静岡県沼津市本松下845-6

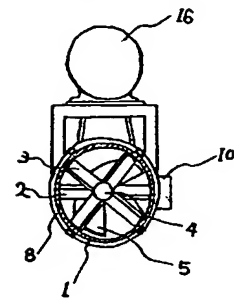
半 田 智 一



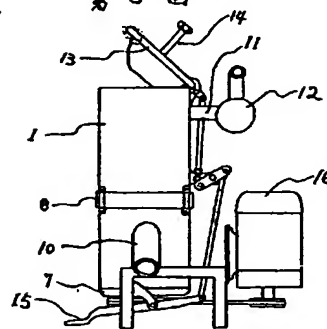
第 1 図



第 2 図



第 3 図



(7)

BEST AVAILABLE COPY